



## 佐渡自然共生科学センターの設立 — 森・里・海の学際的環境科学の研究拠点 —

佐渡自然共生科学センター  
センター長  
崎尾 均先生

本年4月に佐渡自然共生科学センター(以下、センター)が設立されました。センター長を務める崎尾 均先生にお話を伺いました。

### — 設立の経緯を教えてください。

崎尾 もともと佐渡島には農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション(演習林)、理学部附属臨海実験所、朱鷺・自然再生学研究センターの3つの学外施設がありました。これらの3施設を統合して、研究分野を横断した学際的な環境科学の研究拠点とするために設立されました。

### — 佐渡島にセンターを設置する意義、佐渡の魅力は何でしょうか？

崎尾 佐渡島には森・里・海の環境が集約されています。森里海の豊かな自然が隣接しており、それぞれの環境が河川をとおして繋がっています。森里海を舞台に自然を科学する総合的な教育・研究を行うには絶好のフィールドと言えます。また、佐渡には特有の伝統・文化が継承されています。人々が長年の暮らしの中で、地域の自然環境を理解し、自然と共生し、生物多様性を維持しながら伝統・文化を築きあげてきた魅力あふれる地域です。

### — 生物多様性維持の必要性とは？

崎尾 人間の生活は食料や水をはじめとして、さまざまな自然の恵みに支えられています。この恵みは生物多様性を基盤としており、「生態系サービス」と呼ばれています。佐渡島は生物多様性の高いことでも知られています。佐渡の固有種や希少生物が存在する自然環境も貴重ですが、江戸時代からのスギ天然林の保護、林間放牧による半自然草原、里山の薪炭林や水田、暖流と寒流の影響による豊かな海産生物など、歴史的に「生態系サービス」を持続的に利用しつつ、生物多様性を維持してきた地域と言えます。その意味でも自然共生科学の研究成果を地域に役立てたいと考えています。

### — 教育研究を通じた人材育成について教えてください。

崎尾 自然共生科学の教育研究をとおして、生物多様性に関する高度な知識を持った人材を育てたい、そして社会の幅広い分野で活躍できる人材に育ててほしいと願っています。例えば、研究者、調査会社の専門技術者、環境行政に関わる公務員のみならず、マスコミや観光業、その他さまざまな職種でも専門知識や経験は活かせると思います。また、佐渡は、我が国や環東アジアに共通する社会的課題を抱えています。佐渡での教育研究をとおして、社会的な課題についても目を向ける広い視野が養われることを期待しています。

### — 地域貢献、国際交流はいかがでしょうか？

崎尾 地元の人々と協働してつくりあげるシチズン・サイエンスを展開しています。その一例として、佐渡市と連携して、世界農業遺産、ジオパーク、トキに関連するツーリズムのガイド教育など、地元の取り組みを支援しています。

演習林と臨海実験所は文部科学省教育関係共同利用拠点であり、全国の大学のフィールド教育を広く受け入れています。また、海外の大学からの学生の実習も受け入れています。参加人数も増加しており、こうした取り組みをもとに、国際共同研究の実施や協定の締結に繋がりたいと考えています。

社会との接点において、同窓会の皆様からも様々な機会を通じてご協力ご支援いただけると大変助かります。

### — すばらしいセンターに発展しそうです。本日はありがとうございました。

## CONTENTS

i 佐渡自然共生科学センターの設立  
— 森・里・海の学際的環境科学の研究拠点 —

ii ● 平成30年度全学同窓会雪華支援事業 ● 平成29年度会計報告

iii~v 特集 佐渡自然共生科学センター — 3施設の特徴 —

vi ● 六花寮100年記念祭

vii 学部同窓会リレー通信 … 新潟大学全学佐渡同窓会  
● 第5回 みんなのフォト展 in 新大祭 ● 「新潟大学カード」入会のご案内

# 平成30年度全学同窓会雪華支援事業

卒業生からの賛助会費を原資とする公募型支援事業です。平成20年度からの累積支援額は31,855,000円に達します。厳正な審査の結果、本年度は新潟大学図書館の2団体を含む下記22団体に助成しました。

全学同窓会雪華支援事業部会



## 雪華支援事業(A)

クラシックギター部	第55回定期演奏会を充実させるための楽曲を編曲するために必要な楽譜代や定期演奏会における会場代や業者に依頼する照明費などの経費
吹奏楽部	コンクール、演奏会における楽器運搬費
合唱団	昨年度果たせなかった8回目となる全国大会出場を目指す。第54回定期演奏会に向けて、充実した練習を行う。
バスケットボール部	第53回北信越大学バスケットボール春季リーグ戦大会にて2部昇格に向けた練習の向上
基礎スキー部	全国大会における成績向上のための練習環境の維持・発展
競技スキー部	インカレ女子1部昇格、インカレ男子2部昇格、全国国公立大学スキー大会での上位入賞、全国学生岩岳スキー大会男子総合優勝3連覇を目標とし、それらを達成するための夏季、冬季の実践的練習環境の向上において発生する経済的負担の軽減と日々の部活動の中での用具の充実による練習内容の向上において発生する経済的負担の軽減。
硬式庭球部	北信越大会優勝(全国大会出場)のための練習球の質の維持および設備安全性の確保
糸東流空手道部	全日本大学空手道選手権大会出場および北信越大学空手道選手権大会・全国国公立大学空手道選手権大会上位入賞に向けての防具、練習道具の購入
自転車競技部	全日本大学対抗自転車競技大会(インカレ)での実績を残すことに向けた強化活動
卓球部	「新潟大学オープン卓球大会」を始めとする卓球部の県・市卓球連盟への協力及び各種大会における活躍、新潟県のジュニア選手の強化・育成、県内学生のレベルの向上を目的とした県内大学強化大会の主催

バレーボール部	男子は春季、秋季北信越一部リーグで優勝、インカレ上位入賞に向け、女子は二部上位入賞、一部昇格に向け遠征や練習の強化費のため。
ラグビー部	全国地区対抗ラグビーフットボール大会2勝にむけた練習で使用するボール、テーピング等消耗品の必要経費
ラクロス部	東北学生ラクロスリーグ戦での優勝及び全国大会出場に向け、より多くの試合経験を積むための遠征費
陸上競技部	全日本インカレ、全日本大学駅伝、全日本大学女子駅伝、出雲駅伝出場ならびに入賞に向けた活動の強化、各種大会での上位入賞に向けた強化
リズム体操部	競技のための用具購入
科学技術研究部	NHK学生ロボコン優勝ひいてはABUロボコン優勝へむけ、機械部品、電子部品その他消耗品の新調
音響工学プロジェクト	新規性と進歩性のある補聴器とデザイン性のある音響機器の製作
体操競技部	安全性向上のため、着地マットの購入について
探検部	より安全なクライミングと登山、そしてラフティング世界大会に向けて
弓道部	各種大会上位入賞及び国体選手育成のための環境整備
附属図書館(中央図書館)	英語多読リーダーを中心とした語学学習用の整備充実
附属図書館(旭町分館)	医歯学・看護系国家試験関連図書の整備充実

## 平成29年度会計報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

平成30年度第1回全学同窓会理事会(6月28日)において29年度一般会計の監査結果報告が行われました。審議の結果、承認されました。

### 収入の部

費目	予算額(円)	実績(円)
繰越金	2,916,156	2,916,156
賦課金	270,000	270,000
分担金	5,000,000	5,000,000
協賛金	1,650,000	1,890,000
一般広告掲載	300,000	300,000
賛助会費	5,000,000	4,759,000
受取利息	20	21
合計	15,136,176	15,135,177

### 支出の部

費目	予算額(円)	実績(円)
大学等支援費	300,000	300,000
学生支援費	3,500,000	3,300,000
周年事業基金	2,000,000	2,000,000
広報紙	2,000,000	1,662,120
会員等サービス事業	550,000	536,196
事務局費	5,360,000	4,788,387
予備費	1,426,176	0
小計	15,136,176	12,586,703
次年度繰越金	0	2,548,474
合計	15,136,176	15,135,177

# 佐渡自然共生科学センター

## — 3施設の特色 —



### 森林領域

## 演習林



佐渡ステーション全景

### 施設の特徴

佐渡自然共生科学センターの演習林は全国で唯一、島嶼に位置しています。佐渡市小田に研究・宿泊(最大収容人数40名)施設である佐渡ステーションを置き、その東約5km先の山中に教育や研究の場としている森林(演習林)を有しています。演習林は、大佐渡山地北部の稜線沿いに約500haの面積を有し、その大部分は標高600m以上にあります。また海からの湿った風によって、高い頻度で霧や雲で覆われています。自然度の高い森林内には、約500種の植物や、多数の動物・菌類が生息しています。

### 目的

森林科学の研究や教育(学生の実習など)の実践を目的として設置されました。最近では、教育関係共同利用拠点として幅広く全国の大学に利用の門戸を開き、将来を担う大学生の教育に貢献することを目的としています。

### 活動状況

1955(昭和30)年、新潟県より県有林を無償譲渡していただき、佐渡演習林は発足しました。2019年4月現在、教員4名、大学院生6名、学部生9名が所属し、調査・

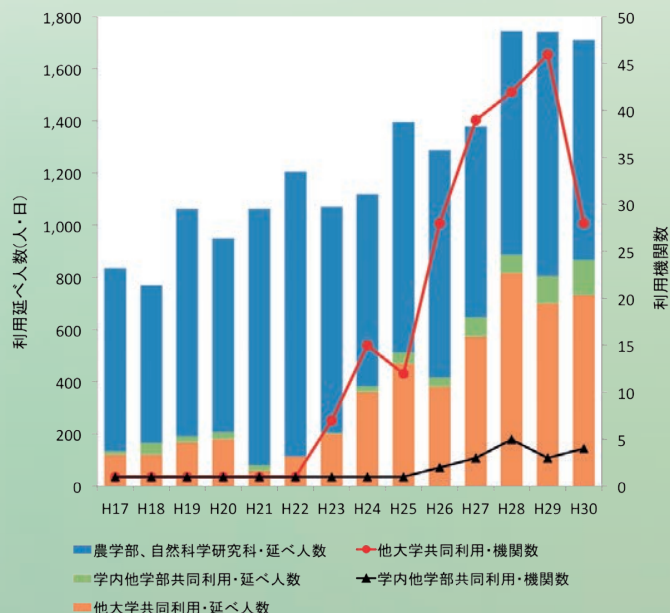


スギ天然林

研究活動を行っています。島嶼に特有の生態系・自然環境の特性を活かし、森林科学・生態学に関わる各種の学生実習や多様な調査・研究、継続的な気象観測や森林動態モニタリングなどを行っています。

2018(平成30)年度の学内からの利用は延べ人数977人、他大学共同利用実習も計17件ありました。他大学等の利用機関数は34校、利用延べ人数は760人でした。合計で1,737人に達しました。国際的な実習にも力を入れており、海外の学生を対象とした実習は3件、利用機関数は7件、計10か国からの利用がありました。

佐渡ステーション(演習林)の利用状況





朱鷺・自然再生学研究施設があるトキ交流会館外観



## 里山領域

# 朱鷺・自然再生学研究施設

### 施設の特徴

本施設には、トキの再導入の実現をめざした「再導入生物学研究室」、里山の生物多様性を解明し復元方法を研究する「生物多様性・生態系復元研究室」、地域の参加と協同による環境共生社会を目指した「環境社会システム研究室」があります。本施設には、教職員居室の他に調査試料分析室、作業室、セミナー室、共同研究室があります。また、教育研究フィールドとして、新穂キセン城地区で放棄された約100枚の棚田(30ha)をピオトープとして復元し、自然再生の技術開発、自然再生人材の育成、絶滅危惧動植物の保全手法の研究等を行っています。

### 目的

里地里山の自然再生には、開発で失われた自然環境、農地の荒廃・鳥獣害により劣化した生態系の復元、外来生物の駆除、及び自然と共存可能な地域社会の復元も含まれているため、佐渡の生物多様性の復元手法およびトキと共存するための共生社会を提案する“佐渡モデル”の確立を目指します。また、他の地域にも適用可能な、学際的な環境科学としての「里地里山の自然再生学」の構築を目指しています。

### 活動状況

研究活動から得られた学術的知見を地域に還元するため、佐渡の自然再生と地域活性化を担う幅広い人材の養成に取り組んできました(H22-26年度科学技術振興調整費地域再生人材創出拠点の形成「朱鷺の島環境再生リーダーユニット」)。H27年度からJST後継事業として「朱鷺の島地域再生人材創出事業」を立ち上げ、さらなる人材育成に取り組むとともに、自然再生を実現する地域社会モデルの構築に向けた実践的研究活動も進めています。また、新潟大学の教養教育に関する科目として、トキの野生復帰を軸とした自然再生の取り組みを通して地域の未来像を考える講義、「トキをシンボルとした自然再生」と実際に自然再生現場を体験する実習、「朱鷺・自然再生フィールドワーク」を開講しています。また、野外実践科学人材育成プログラムの専門教育として「里地里山再生学」、「希少生物保全学」、「自然再生学実習」を開講しています。



朱鷺・自然再生学研究施設居室



キセン城での朱鷺・自然再生フィールドワーク実習風景



臨海実験所全景



## 海洋領域

# 臨海実験所

### 施設の特徴

佐渡島には様々な海岸環境があり、夏季には対馬暖流の影響を、冬季には寒流や冷たい季節風の影響を受けるため、暖海性と寒海性の両方の生物が出現します。これらの特徴により、佐渡島では多種多様な海洋生物が見られます。

本実験所は海洋教育のための実習用設備と研究機器を備えています。主には、自然海水およびろ過海水を常時かけ流し可能な水槽19基を有する水生生物飼育室、実習船2隻、光学・実体顕微鏡モニタシステム等の最新鋭の研究機器、最大42名収容可能な宿泊施設を有します。佐渡島近海で採集された海洋生物標本約4,000点を収蔵する標本室もあります。

### 目的

佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して、海洋生物の多様性や生態、環境適応、進化発生などについての高度な教育・研究を行っています。また、森林領域/演習林、および里山領域/朱鷺・自然再生学研究施設と連携して、森里海生態系の構造と機能についての高度な知識と見識をもった人材を育成しています。

### 活動状況

全国の大学生・大学院生向けの臨海実習を開催しています。2013年度より文部科学省の教育関係共同利用拠点として、海洋生物の多様性と生態系の機能を総合的に理解する高度なフィールド教育プログラムを国内外の大学に提供しており、2018年現在、年間利用人数は延べ約1,600人に達しました。

小・中学生や高校生、理科教員、一般の人を対象にした臨海実習や体験学習、出前授業、研修なども行っています。主にアジア圏の国や地域からも教員や学生を招いて、温帯域の海洋生物の多様性と生態について学ぶ国際臨海実習を毎年実施しています。



留学生の国際臨海実習



実習船での調査



プランクトン採集

# 六花寮100年記念祭

本学の学生寮「六花寮」の創立100周年を記念する100年祭が6月8日に行われました。現在、五十嵐キャンパス内に所在する六花寮は、旧制新潟高校からその名称を引き継ぐ伝統ある学生寮です。大正8(1919)年4月に全寮制の旧制新潟高校が創設されたことに伴い、最初は西大畑に仮設の寄宿舎として開設されました。翌年、現在の教育学部附属特別支援学校に木造の寮舎が竣工し、昭和6(1931)年には六華寮と命名されました。昭和23(1948)年には学区制の改正により、六華寮は新制新潟大学に引き継がれました。昭和40(1965)年5月末、初代六華寮は老朽化のため、閑屋に竣工した鉄筋コンクリート造り4階建て2棟の寮舎へ移転しました。その後、二代目寮(昭和43(1968)年3月に六花寮に名称変更)も老朽化と耐震性の問題から、平成23(2011)年に五十嵐キャンパス内にある現在の六花寮に移転しました。

100年祭の当日、卒業生は新潟大学教育学部附属小学校グラウンドに集合し、記念写真を撮影後、太鼓に合わせて「頌春の歌」などの寮歌放吟を行いました。その後、新潟大学医学部講堂に会場を移し、高橋姿学長を招いて記念式典と懇親会が行われました。北海道から長崎県まで



全国から、1949～2009年に入寮した元寮生約90名の参加があり盛会となりました。数十年ぶりに再会する卒業生もいて、青春時代を懐かしむ会話がはずみ、15時の閉会になっても多くの参加者が別れを惜しんで会場から立ち去らず、30分後ようやく解散となりました。次回は5年後に開催することに決定しました。

日比恆明・昭和47(1972)年工学部卒

## 私たちが新潟大学を応援しています

秋田厚生医療センター、旭カーボン(株)、(株)アステック、(株)アツマテクノス、ANA クラウンプラザホテル新潟、EY 新日本有限責任監査法人新潟事務所、(株)磯部ハイテック、(株)牛木組、(株)宇都宮製作所、エアブラック(株)、金井度量衡(株)、共立印刷(株)、(株)考古堂書店、(株)コロナ、近野茂公認会計士事務所、佐藤食品工業(株)、JA 新潟厚生連、(有)信成科学、(株)新宣、進展工業(株)、信楽園病院、諏訪湖畔病院、(株)高田建築事務所、高田西城病院、(一財)竹田健康財団、田辺建設(株)、玉源(株)、新潟県信用組合、新潟信用金庫、新潟大学生協同組合、新潟ダイヤモンド電子(株)、新潟中央青果(株)、新潟メスキュード(株)、日東アリマン(株)、日本精機(株) NS 悠久会、(株)パイオニア、(株)博進堂、(株)畠山種苗園、(株)ヒウラ、新潟税理士法人 深滝合同事務所、(株)福田組、(株)不二産業、藤木鉄工(株)、富士印刷(株)、富士ゼロックス新潟(株)、(有)平成マネジメントサービス、北越コーポレーション(株)、北越工業(株)、八洲設備工業(株)、(株)リンコーコーポレーション

協賛企業 50 社 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

## NIIGATA DIAMOND ELECTRONIC



### 事業内容

1. 電子機器の製造・販売
2. 冷暖房器具、浴用機器の製造・販売
3. 家庭用電気機械器具の製造・販売
4. 産業機械機器の製造・販売
5. 車載電子製品の製造・販売

ホームエレクトロニクスの未来、そして優れた生産性が築かれる場所

### 新潟ダイヤモンド電子株式会社

〒959-0261 新潟県燕市吉田鴻巣65-4  
TEL:0256-92-5101 FAX:0256-92-7657

<http://www.n-diaelec.co.jp>



設計から製造まで一貫生産

## 新潟税理士法人 深滝合同事務所

代表社員(税理士) 深滝 信夫

所長(税理士) 磯部 利行

税理士 上田 英明

税理士 根本 昌幸

公認会計士  
試験合格者 高橋 登

社会保険  
労務士 桑野 光洋

■公益認定・移行申請手続支援業務

■指定管理者申請手続支援業務

■法人税・所得税・相続税・各種会計指導・適正税制・公益法人会計・税務申告・各種税金申告相談等

■経営計画・資金計画・経営指導・人材育成・

資産運用・各種法人設立・生命保険・損害保険等

〒950-2024 新潟市西区小新西3丁目15番7号

TEL:025-267-4843 FAX:025-265-3314

<https://fukatagigoudoujimusyoto.tkcfnf.com/>

# リレー通信

## 新潟大学全学佐渡同窓会の歩み

新潟大学全学佐渡同窓会は、佐渡在住の新潟大学全学部の卒業生を対象として平成18年10月10日に設立されました。初代会長は服部晃氏(医S37・院S42卒)。当時佐渡総合病院院長であったこともあり、医療シンポジウム3回、「佐渡の医療をこれからどうするか」、「佐渡の医療、現在、これから」、「人生最後の舞台を考えよう」を毎年一回開催しました。続いて佐渡文化講演会「芸術は身近なもの」(東京藝術大学、宮田亮平学長)、「自然と生命の美しさと奥深さ」(東京大学大学院総合文化研究科特任教授兼総長室顧問、浅島 誠氏)の開催、さらに教育シンポジウム「佐渡の教育を考えよう」、佐渡ジオパーク、朱鷺の話など会員講師による講演会も開催してきました。平成28年9月11日には創立10周年を迎える事ができました。昨年は従来の講演会方式から新しい試みとしてジオパーク研修会を開催、会員以外の参加も可とし、市橋弥生会員を講師に真野湾から小半島を案内してもらいました。写真はその時のスナップです。

初代服部晃会長は思いがけず昨年10月30日、ご逝去されました。改めて本同窓会への多大なご尽力を戴きました事に深く感謝の意を表しますと共に、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

中川哲昌(新潟大学全学佐渡同窓会会長)・昭和37(1962)年理学部卒



昨年開催されたジオパーク研修会。講師の説明をうける参加者

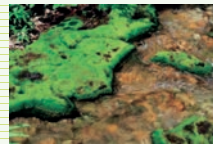
## 第5回 みんなのフォト展

10月19日(土)・20日(日) in 新大祭

新潟大学全学同窓会では、新潟大学附属図書館1階ライブラリーギャラリーにおいて、写真展を実施します。

新潟大学の同窓会員・在学生・教職員にかぎらず、高校生や一般市民の方など、どなたでも自由なテーマで応募できます。

### 第4回応募作品



「チャツボミゴケ公園にて」  
小林進



「富士山 忍野八海」  
近藤栄穂



「Autumn Colors」  
高橋令子

写真展会期中の五十嵐キャンパスでは「新大祭」が開催されます。各種ライブやダンス、トークショーや模擬店販売などをどなたでもお楽しみいただけます。貴方の作品の展示を見に来るついでに、今どきの学園祭をご覧ください。



詳細はWebページをご覧ください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/>

## 学部同窓会のメールマガジン

購読希望の方は以下の要領で配信希望のメールアドレス(携帯電話以外)からお申し込みください。

メールのタイトル 同窓会メルマガ配信希望

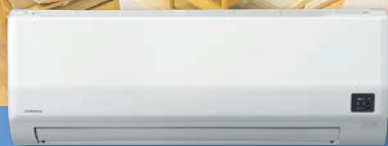
メールのあて先 n-zendoso@adm.niigata-u.ac.jp

メールの本文

- あなたのメールアドレス(送信のアドレス)
- あなたのお名前 ● 卒業(修了)年と学部(研究科)

CORONA

# 天井気流が ココチイイ



夏も冬も  
Wで快適

コロナのエアコン  
Wシリーズ

株式会社 コロナ 本社 / 〒955-8510 三条市東新保7-7 TEL0256(32)2111(代)

## 新潟大学カードに 入会しましょう



新潟大学の卒業生なら誰でも入会できる三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)のクレジット機能付きVISA国際カードをご案内します。いろいろな特典がございますので、この機に是非ともご入会ください。

カード会員  
の特典

年会費無料

海外旅行  
傷害保険  
(最高3,000万円)

国内旅行  
傷害保険  
(最高3,000万円)

安心の24時間  
コールサービス

海外の現地情報を  
日本語でサポート

国内主要空港とイノウエ(旧ノルル)国際空港で利用できるラウンジがあります。

新潟大学カードの提示により新潟大学図書館の利用(閲覧や図書の貸出)が可能です。

新潟大学からのお知らせ

新潟大学佐渡自然共生科学センター  
開所記念シンポジウム

『地域と共につくりあげる「自然共生科学拠点」  
を目指して!!』を開催しました

本学では、本年4月に佐渡島に設置した「佐渡自然共生科学センター」の開所を記念したシンポジウムを佐渡市内において開催しました。

シンポジウムでは、高橋姿学長の開会挨拶の後、新潟県知事、佐渡市副市長そして文部科学省の渡辺その子審議官(科学技術・学術政策局担当)からそれぞれ祝辞が述べられました。続いて、崎尾均佐渡自然共生科学センター長から、活動紹介と今後の構想について説明があった後、総合地球環境学研究所の中静透特任教授から「森里海の恵みを科学する」と題して人間と自然の共生社会について基調講演が行われました。

また、同センターの豊田光世准教授の進行の下、女優の中嶋朋子さんと、FM-NIIGATAパーソナリティの上村知世さん(本学卒業生)をゲストに迎えて「自然は感性のゆりかご」と題して人と自然との関わりについて特別対談が行われました。対談の中では、中嶋さんによる絵本の朗読も行われ、来場者にとっても日常の中にある発見や自然の感動などを改めて感じられる時間となりました。



新潟大学は、創立70周年を迎えます

新潟大学は、1949年に国立学校設置法が公布されたことにより、新製の国立大学として創設され、2019年に創立70周年を迎えます。

創立70周年を記念し、大学関係者及び地域のみならず等に広くPRすることを目的として「新潟大学創立70周年ロゴマーク」を作成しました。

このマークは、新潟大学が実施する行事のポスターやWEBサイト等に掲載します。

新潟県の「県の鳥」である朱鷺と夕日、日本海に浮かぶ佐渡島。

朱鷺と夕日は「70」にも見えるよう描かれています。

(デザイン:牛木辰男理事)



新潟大学全学同窓会からのお知らせ

新潟大学・全学同窓会交流会

- 日 時：令和元年10月19日(土) 15:30～
- 会 場：ANAクラウンプラザホテル新潟 2F「芙蓉」  
(新潟市中央区万代5-11-20)
- テーマ：「口と食からめざせ健康長寿」

【講演会】

【入場無料】

特別企画(15:40～15:55) 定員300名

「新潟清酒の魅力 ～過去、現在、未来～」

講師／金桶 光起 氏 (新潟県醸造試験場 場長)

記念講演(16:00～17:00)

「お口から考える健康長寿」

講師／吉江 弘正 氏 (新潟大学名誉教授)



●プロフィール●

1953年群馬県生まれ、1977年新潟大学歯学部卒業、1981年新潟大学大学院博士課程修了、1981年米国ボストン・フォーサイス歯科センター研究員、1999年新潟大学歯学部教授、2018年新潟大学定年退職し名誉教授。日本歯周病学会指導医、元日本歯周病学会理事長。日本歯科医学会会長賞2016・米国歯周病学会 名誉会員賞2017・日本歯周病学会 学会賞2017受賞。日本において国民病でもある「歯周病」について、42年間教育・臨床・研究に携わってきた。

講演の抄録

健康長寿であるためには、口腔の役割は大切です。おいしく食事ができる、楽しい会話ができることは、小児から高齢者まで共通した願いです。そのためには、口腔を健康な状態にしておく必要があります。う蝕や歯周病、口腔の病気(口腔乾燥、口腔粘膜病変、がん等)について話をします。

次に、歯周病と全身について述べます。からだの病気が歯周病を悪化させる、逆に歯周病が各臓器に悪い影響を及ぼすこともあります。糖尿病、心筋梗塞、リウマチについて説明します。

最後に歯周病予防を一緒に考えてみましょう。歯周病を予防すると長生きができ、生涯の総医療費も節約することが可能です。「ていねいな歯磨き」、「定期的な健診・歯科検診」、「適切な生活習慣」がポイントで、病状に合わせて行動することが重要です。

【懇親会】

17:30～19:30 定員250名 先着順

※会場は講演会と同じ

会費／5,000円(学生3,000円)

特別企画とタイアップして選りすぐりの新潟の酒をご用意します。是非ご堪能ください。

締め切り：10月4日(金)

申込先：新潟大学全学同窓会事務局

TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892

E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学全学同窓会

事務局：〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050番地  
TEL 025-262-7891 FAX 025-262-7892  
E-mail dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp  
https://www.niigata-u.ac.jp/dousoukai/

運営委員会広報部より：佐渡島には風光明媚な観光スポットが数多くあります。透明な海、大佐渡山地からの眺望、おいしいコシヒカリと日本酒と海鮮料理、そして温泉。佐渡自然共生科学センター朱鷺・自然再生学研究施設のあるトキ交流会館に宿泊すると、朝はトキの鳴き声で目覚め、周囲の林でトキを観察できます。魅力あふれる佐渡島ですが、離島ゆえに観光では不利な面もあります。教育研究活動を通じて佐渡島の魅力が発信され、本学、全国、世界から若い学生が訪れて地域に貢献できるよう、機会を見つけて私たちも応援しましょう。